
由奈

スイカのペンギン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

由奈

【Nコード】

N7684K

【作者名】

スイカのペンギン

【あらすじ】

幸せな日々から一転。

去年の夏から俺は奄美^{あまみ} 由奈^{ゆな}と交際をしている。

そんなある日、いつもの様にデートの約束をし由奈を待っていた。彼女は時間ぴったり来たことはないが、その日はいつもと違い、一時間待っても来なかった。

心配して何度も携帯電話に電話をする。

幾度となく留守番電話のメッセージが流れる。

仕方なく、由奈の家の方へ足を向けて歩きだす。

しばらく歩くと何やら人だかりが出来ていた。

気になった俺は野次馬に混ざって状況を確認しようとした時、俺は信じたくない現実を目撃した。

血のような赤黒い液体の近くに転がっているリング…

それは俺が由奈にプレゼントしたリングによく似ていた。

俺がプレゼントしたリングは少し特殊なデザインだ。
なので

あれは由奈のだ、とわかった。

「由奈ーっ!」

気がついたら叫んでいた。

その時の俺は冷静さを失っていた。…

…数日後

あの悪夢のような事件から数日がたった。

騒動は自動車事故だったらしい。

この事故自体は詳しく知らない。

俺はその被害者が…奄美 由奈ということが信じられなかった。

やはりあのリングは由奈のだった。

涙も渴れ果て喉もすっかりガラガラ声だ。

あまりのショックでこの頃の俺は実家で引きこもりをしていた。

ちくしょう…

ちくしょう…

なんでこんなことに

ずっとそんなことを考えていた

そんな日がしばらく続いた。

そんなある日、

あのリングはどこへ行ったのだろう。とふと思った。

そんな事を考えていると、瞼が重たくなってきた。
そしてそのまま俺の意識は別の世界へと飛ばされた。

次に目を開けた時には光がさしているのかと思う位眩しい真っ白な空間だった。

向こうから…誰かやってくるあれは…由奈だ！

由奈ーっ！

声を出そうとしたがでない。

由奈はあの頃と変わらない優しい笑顔でこちらへ近づいてきた。

そして俺を抱きしめた。

俺は力が入らない事に気がついた。

そんな俺に構わず彼女は抱きしめたまま

「私は天から見てるから。私の分も幸せになって。彰大好き。」

と告げるとすっと消えた。
…

…翌朝

起きると手の中に何か入っていることに気づいた。

それは由奈のリングだった。

枯れたはずの涙と共に「由奈、ありがとう」と言葉が出た。

きつと、心の中の何かを由奈がとってくれたんだろう…。
その後涙が止まらなかった。

それから俺は変わった。

引きこもりを止め、今は普通の職についている。

由奈の分も一生懸命生きようと俺は今日も家をでる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7684k/>

由奈

2010年10月15日23時11分発行